

## 言語力を鍛える

学力向上の基本は、この言語力にあると言っても過言ではありません。言葉の力を身に付けさせることは、ただ単に学校の成績をアップさせるだけでなく、実生活にも反映されます。

たとえば、「あいさつ・返事」にしても重要なのは言葉の力です。あいさつの1つもきちんとできない人間が社会の中で信頼を得るわけはありません。これは親であればだれでも実感として分かるのではないのでしょうか。他にも、「言葉遣い」についても同じことが言えるでしょう。

では、これらのことは人生のどのステージで身に付けるべきものなのでしょうか。実は、これらは学校ではないのです。最も身近な存在である「親」が鏡となって子どもに教えていくものなのです。家庭での言語環境が子どもの成長には大きな影響を与えています。我々はそこをまず認識しなければなりません。

さて、そうなってくると家庭での言葉を見直すポイントが必要です。それは、①正しい言葉、②豊かな言葉で。そしてここが重要ですが、③実際子どもに使わせる、です。

たとえば……

「ほら、時間！ハンカチ！」ではなく、「ほら、時間がきます。あなたはハンカチをもらっていますか」と話しかける。

夕日を見ても、「きれい！」だけではなく、「美しいですね。感動的ですね。すばらしいですね」といろいろな言い方をしてみせる。

言葉は使ってみてはじめて、身につきます。毎日ドイツ語の放送を聞いたからといって、ドイツ語を話せるようにはなりません。子どもには、正しい言葉と話させるようにします。最初、照れてしまって、なかなか使ってくれないこともあります。それを乗り越えると、正しい言い方が身に付いてきます。

こうした会話力（基礎的な国語力）があってはじめて、子どもは、その上で言語力を花咲かせることができます。

こういった地道な積み重ねが、きちんとした子どもに育てていくことにつながります。

（文責 教頭）

